

**救急時の対応及び情報提供カード
作成手順マニュアル**

鹿屋市保健福祉部高齢福祉課

平成 25 年 1 月 24 日

目 次

| | | |
|----|----------------------------|----|
| 1 | 目 的 | 1 |
| 2 | 高齢者入所施設等における救急搬送時の対応の現状と課題 | 1 |
| | (1) 救急搬送の現状 | 1 |
| | (2) 福祉施設等からの救急搬送の現状と課題 | 1 |
| | (3) 現場サイドの現状と課題 | 1 |
| 3 | 高齢者入所施設等における救急搬送連絡会議の設置 | 2 |
| | (1) 目的 | 2 |
| | (2) 協議内容 | 2 |
| | (3) 連絡会議の構成員 | 2 |
| 4 | 確認事項 | 3 |
| | (1) 各関係機関との意見交換の実施 | 3 |
| 5 | 救急搬送時の対応について | 3 |
| | (1) 利用者の発症・受傷が確認された場合 | 3 |
| 6 | 情報提供カードの作成手順 | 4 |
| | (1) 事前記載事項について | 4 |
| | (2) 119番通報時の記載事項 | 5 |
| | (3) 観察状況及び応急処置の状況 | 5 |
| 7 | 「事前記載事項」の個人情報の取り扱いについて | 6 |
| 8 | 「かかりつけ医療機関」の定義 | 6 |
| 9 | 入所者及び家族への情報提供に関する説明書 | 7 |
| 10 | 救急隊への情報提供カード | 9 |
| 11 | 緊急連絡の流れ（参考） | 11 |
| 12 | 救急対応のフロー | 13 |
| 13 | 消防署からの福祉施設への要望等 | 14 |

救急隊が出動するような緊急時では、医療の施し方一つ、情報の錯綜による一分一秒の遅れが、その人の命に大きな影響を与えます。

目 的

近年、介護施設や居住系施設など高齢者入所施設、また、住宅型有料老人ホームを中心とした高齢者住宅が整備され、要援護状態の高齢者の救急搬送が年々増加してきています。

そこで、入所（入居）中の要援護高齢者が、速やかにかつ適切に医療機関に搬送できるように高齢者施設等の事業者と大隅肝属消防組合・鹿屋市医師会・鹿屋市が連携し「救急隊への情報提供カード」を作成します。

入所者の緊急事態はいつ起こらないとも限りません。特に、休日・夜間は施設職員が少なくなります。もしもの時に尊いのちを救うためには、あらかじめ「情報提供カード」に必要なことを記入しておき救急隊に提供することでスムーズな搬送につなげます。

高齢者入所施設等における救急搬送時の対応の現状と課題

1 救急搬送の現状

救急搬送者数は、平成23年度6,014人、うち急病者数が3,392人、急病者のうち65歳以上の搬送車者数は2,217人であり、全体の急病者の65.4%を占めた。これは平成22年度に比べ325人増加し、年々増加の状況にあります。

高齢者の傷病程度でみると、軽症者割合が高齢者全体の26.8%を占め、中等症度以上の割合は、73.2%であり、高齢者の搬送は重篤な状況での搬送が多いことがわかります。それに対して、65歳以下の傷病程度は55.8%と半数以上が軽症者であり、高齢者とは異なる傾向にあります。

2 福祉施設等からの救急搬送の現状と課題

- (1) 施設職員の現場の情報収集不足等により、救急搬送要請の経緯や観察状況、日頃の疾病・薬剤情報等が不十分なまま搬送され、搬送先の医療機関の対応に支障が生じたりする事例も多く、また、救急隊の搬送ルートが確保されていない等の課題があります。
- (2) 事業所の増加により、医療的結びつきが浅い事業所にとっては、救急搬送ルールの理解の不十分さや介護職員の知識・技術的未熟さが課題となっています。

3 現場サイドの現状と課題(連絡会議より)

- (1) 居住系施設および住宅型有料老人ホーム施設と、かかりつけ医・協力医療機関との具体的な連携および支援体制が不十分なために、事故や急変時の対応が機能的に連携できていない状況があります。
- (2) 施設独自の情報提供カードがあっても、効果的な活用となっていない状況にあります。
- (3) 高齢者の急変時の対応方法について、理解不足や経験不足により、対応が不十分となっている場合があります。
- (4) 急変時、どこまでが施設で対応できるのか、どのような場合かかりつけ医や協力医療機関・夜間急病センターなどへの電話対応でよいのか、また、救急搬送すべきはどのような状況の場合なのかなど、緊急性の判断について、介護職員の困惑もみられます。

高齢者入所施設等における救急搬送連絡会議の設置

1. 目的

本会は、高齢者福祉施設等と救急関係機関及び消防署との連携を密にして、救急業務の適正化、潤滑化を図ることを目的としています。

2. 協議内容

- (1) 問題解決のための方策に関すること
- (2) 情報提供シートの作成及び救急搬送のルールづくりに関すること。
- (3) 事業所等への啓発のための取り組みに関すること
- (4) 事業実施後の評価に関すること。
- (5) 在宅介護サービス利用者の救急搬送に関すること

3. 連絡会議の構成員

- (1) 鹿屋市医師会
- (2) 大隅肝属地区消防組合
- (3) 福祉施設関係者(介護福祉施設・地域密着型サービス事業所・有料老人ホーム)
- (4) 保健福祉関係者(介護支援専門員・ヘルパー・訪問看護師・地域包括支援センター・地域医療連携室)
- (5) 公的団体関係者(県保健所・鹿屋市)
- (6) その他連絡会議が必要と認める者

確認事項

1 各関係機関との意見交換の実施

高齢者施設等事業者代表の皆様と連絡会議及び合同会議において、この取り組みの大切さとして以下の点について確認しました。

- ・連絡会議 平成24年11月 8日・30日、12月25日 開催
- ・事業所合同会議 平成24年11月12日 開催

- (1) その仕組みづくりを関係者代表による連絡会議を設置し、ルール作りを行うこと。出来るだけ簡素化に。
また、ルール作りは連絡会議を設置して進めること。
- (2) 市民の生命に関わることは、関係者全員すなわち自分たちの事とし、出来るだけ早急に取り組むこと。
- (3) この取り組みが形骸化しないように、実施後の評価と合わせて、全事業者の足並みを揃えること。
また、取り組みが出来てないところへの対策を講じること。
この取り組みは、事業者にとって最も大切であること。
- (4) 情報提供カードの連携を機に施設内での不慮の事故を防止など、日頃からできる対策の事故防止、応急手当などもこの連絡会議で協議し、利用者が安心して過ごせる施設を目指すこと。

救急搬送時の対応について

1 利用者の発症・受傷が確認された場合

- (1) 施設ごとに作成されている「救急時の対応マニュアル」にもとづき対応する。
- (2) 応急処置や観察を行い、まずは、かかりつけ医や協力医へ連絡し対応についての指示を得る。
- (3) 119番通報を行い救急搬送しなければならないと判断した場合は、あらかじめ記入されている「救急隊への情報提供カード」に、119番通報時の記載事項に沿って必要事項を記入する。
- (4) 救急隊に状況報告し、対応の指示にもとづき、救急隊到着までの対応を行う。
- (5) 救急車の搬送ルートの確保を行う。
- (6) 救急隊到着までに、大きな状況変化があった場合は、追加連絡する。
- (7) 救急者へ同乗する場合は、「情報提供カード」及び利用者の状況がわかる記録等を持参する。
- (8) 医療機関へ着いたら、職員は医師や看護師等と連絡できる体制で病院内で待機し、必要な情報提供や指示を受ける。

情報提供カードの作成手順

1 事前記載事項について

(1) 記載時期

①最初の作成時期：入所時のアセスメント時に得られた情報をもとに必要事項を記入する。

②2回目以降の情報更新

・6ヶ月毎に情報の更新を行う。

・入所中、事故や入院等利用者の状況に変化があった場合は情報の更新を行う。

(2) 確認の有無

救急搬送時の情報提供カードに関する説明行ったことの確認と、確認日、誰に対し説明および確認を行ったかを記入する。

(3) 生年月日・年齢・性別

年齢は記入日時の年齢とする

(4) 住所

①入所施設に住所を異動している場合は「施設に同じ」にをする。

②住所地が施設以外の場合住所欄に記入する。

(5) 病歴等

現在治療中の病気やケガの内容を記入する。感染症の有無は該当に○をし、病名を記入する。

(6) 既往歴

これまでの既往歴を記入する。

(7) 常用服用薬

現在処方されている薬（外用薬も含む）。お薬手帳の写しや、薬剤情報の写しでもよい。

(8) かかりつけ医

かかりつけの病院名、所在地、担当医師名、電話番号を記入する。

(9) 注射

通院や訪問等により点滴や注射等を行っている場合は、「有」に○をし、その内容を記入する。

(10) アレルギー

アレルギーと診断されていないまでも、これまでに食事や環境によりアレルギー反応があったものを記入する。

(11) ADL

日頃のADLについて記入する。入所者の状況に応じて該当するものに○をする。

(12) 救急発生時の連絡確認欄

病院到着後、病院スタッフより家族同乗の有無と同乗がない場合の家族の連絡状況を確認されるので、救急通報発生時に確認し記入しておく。

2 119番通報時の記載事項

(1) 発症（受傷）の目撃

目撃していた場合は、時刻を記入する。

(2) 普段の状態の最後の確認

発症（受傷）の前に日頃の状況として最後に確認できていた時間を記入する。

(3) 日常生活

通報時の「会話」や「歩行」の状況を該当するものに○をする。

(4) 発症又は発見時の状況

時系列に状況を記入する。

(5) 症状等

該当する状況に☑をする。

(6) 最後の食事

食事時間を記入する。

(7) 病院手配

①救急隊到着前にかかりつけ医の選定する病院が手配済みであれば、搬送が迅速に行えるため、救急発生時に、かかりつけ医に傷病者状況を伝えその判断を仰いでおく。

②かかりつけ医による判断により、専門病院への搬送を指示される場合がある。主治医から専門病院医師の連絡があれば救急隊からの依頼より、病院の受け入れの可能性が高い場合があるので、「結果」について記入する。

3 観察状況及び応急処置の状況

(1) 意識レベル・呼吸回数・脈拍・血圧・体温

わからない場合は、意識の「有・無」、呼吸・脈拍の「早い・遅い」など記入しておく。

※最低限この5項目については、対応し記入すること。

(2) 瞳孔

左右の瞳孔の状況を観察し記入する。

(3) SPO2（血中酸素飽和度）

酸素投与前、投与後の測定値を記入する。

(4) 救命措置

何らかの救命処置を行った場合、その内容に○をつけ、開始した時間を記入する。

(5) AEDの使用

AEDを使用した場合の開始時間、ショックの実施（回数）を記入する。

(6) その他の処置

固定・止血・冷却・静脈路それぞれ行った場合に開始時間を記入する

(7) その他

- ①短い時間でできることに限りがあることから、介護職としてできる範囲で行った内容を記入する。
- ②書けない場合は(1)の項目のみ記入する
- ③多数の職員で対応できる場合等は、できるだけ応急処置を行い、観察した内容を記入する。

「事前記載事項」の個人情報の取り扱いについて

1 「情報提供カード」作成に関する利用者等への周知

事前記載事項の個人情報は、情報提供カードの有無にかかわらず、救急搬送発生時に救急救命活動を速やかに行うために必ず提供する情報であることから、本人に情報提供する必要性の理解を得ておくこと。

(1) 事前情報

生年月日・年齢・住所の記入。

(2) 119番通報時の記載事項

「情報提供カード」作成手順により記入。

「かかりつけ医療機関の定義

提供カードで使用する「かかりつけ医療機関」とは、過去1年以内に、現在現れている病状・病態等と関連する疾病で当該医療機関の当該診療科に受診したことのある医療機関をいいます。

「入所者の尊いいのちを救うために」

救急搬送時における救急救命活動に関する情報提供への御理解・御協力をお願い

近年、介護施設や居住系施設など高齢者入所施設、また、住宅型有料老人ホームを中心とした高齢者住宅が整備され、要援護状態の高齢者の救急搬送が年々増加してきています。

そこで、入所（入居）中の要援護高齢者が、速やかにかつ適切に医療機関に搬送できるように高齢者施設等の関係機関が連携し「救急隊への情報提供カード」を作成しました。

入所者の緊急事態はいつ起こらないとも限りません。特に、休日・夜間は施設職員が少なくなります。もしもの時に尊いいのちを救うためにはあらかじめ「情報提供カード」に必要なこと（「常用服用している薬」「現在治療中の病気やケガ」「かかりつけ病院」「緊急連絡先」「救急搬送を要請するに至った理由」など）を記入しておけば、救急隊は的確に情報を知ることができスムーズな搬送につながります。

【活用方法】

施設利用者様の情報を市の定める「情報提供カード」に記入保存し、入所(入居)中に救急搬送の必要な状況になった場合における救急救命活動が迅速に対応されるよう活用していきます。

【情報更新】

できるだけ最新の情報を提供できるよう、6ヶ月ごとに情報の更新を行い、かかりつけ医・施設の協力医療機関ともに連携しながら救急時の対応を行ってまいります。

【使用範囲】

入所施設から救急隊と搬送先の医療機関に提出し、救急業務以外には使用しません。

御家族の皆様におかれましては、なにとぞ趣旨のご理解をいただきご協力いただきますようお願いいたします。

※ 個人情報保護等により提供できないと判断した場合は、申し出ていただきますようお願いいたします。「救急搬送を要請するに至った理由」など最低限の情報の提供とします。

平成 年 月 日

施設名
連絡先
施設長

※ 「情報提供カード」裏面へ

様

〇〇施設長

「入所者の尊いいのちを救うために」

救急搬送時における救急救命活動に関する情報提供について(お願い)

ご家族の皆様におかれましては、当施設の運営については、かねてから格別な御配慮をいただいております。深く感謝申し上げます。

さて、近年、介護施設や居住系施設など高齢者入所施設、また、住宅型有料老人ホームを中心とした高齢者住宅が整備され、要援護状態の高齢者の救急搬送が年々増加してきています。

そこで、入所(入居)中の要援護高齢者が、速やかにかつ適切に医療機関に搬送できるように高齢者施設等の関係機関が連携し「救急隊への情報提供カード」を作成しました。

入所者の緊急事態はいつ起こらないとも限りません。特に、休日・夜間は施設職員が少なくなります。もしもの時に尊いいのちを救うためにはあらかじめ「情報提供カード」に必要なこと(「常用服用している薬」「現在治療中の病気やケガ」「かかりつけ病院」「緊急連絡先」「救急搬送を要請するに至った理由」など)を記入しておけば、救急隊は的確に情報を知ることができスムーズな搬送につながります。

御家族の皆様におかれましては、なにとぞ趣旨のご理解をいただきご協力いただきますようお願いいたします。

※ 個人情報保護等により提供できないと判断した場合は、申し出ていただきますようお願いいたします。「救急搬送を要請するに至った理由」など最低限の情報の提供とします。

【活用方法】

施設利用者様の情報を市の定める「情報提供カード」に記入保存し、入所(入居)中に救急搬送の必要な状況になった場合における救急救命活動が迅速に対応されるよう活用してまいります。なお、最新の情報を提供できるよう、6ヶ月ごとに情報の更新を行います。

【使用範囲】

入所施設から救急隊と搬送先の医療機関に提出し、救急業務以外には使用しません。

施設名
連絡先
担当者

※ 「情報提供カード」裏面へ

救急隊への情報提供カード 以上については、年 月 日現在の情報です。

【事前記載事項】：ご利用者ごとに事前に記載しておいてください。

| | | | | | |
|-------------------|------------------------------|---------|-------|---|----------------|
| 施設名 フリガナ | 確認の有無 | 有・無 | 確認日 | / / | 説明を聞いた人 () |
| 氏名 | 年齢 | 歳 | 性別 | 男・女 | |
| Tel | 生年月日 | M・T・S・H | 年 | 月 | 日 |
| 住所 | □:施設に同じ | | | | |
| 病歴等 | 現在治療中の病気・ケガ (感染症 有・無 病名) | | 既往歴 | | |
| 常用服用薬 | 注射 | 有・無 | 血液型 | O・A・B・AB 型 RH(+・-) | |
| | | | アレルギー | 有・無 () | |
| かかりつけ病院名 担当医師名 | (電話) | | ADL | 歩行(全介助・一部介助・見守り・自立) 食事(全介助・一部介助・見守り・自立) 排泄(全介助・一部介助・見守り・自立) | |
| 緊急連絡先 (家族等) | 氏名 | 続柄 | Tel | | |
| 住所 | 救急発生時の連絡確認欄 | | | 連絡 済・未 | |

【119番通報時の記載事項】：本日救急搬送を要請するに至った理由などを記載してください。

| | | | | | |
|-----------------------|---|------------|----|-----------------|-------------|
| 発症(受傷)を目撃しましたか? | はい(日 時 分頃)・いいえ | | | | |
| 普段の状態を最後に確認したのはいつですか? | 日 時 分頃 | | | | |
| 日常生活 | 会話 | 可能・一部可能・不可 | 歩行 | 全介助・一部介助・見守り・自立 | |
| 発症または発見時の状況、主な訴えや症状など | <input type="checkbox"/> ：顔面蒼白 <input type="checkbox"/> ：嘔気・嘔吐 <input type="checkbox"/> ：頭痛 <input type="checkbox"/> ：胸痛 <input type="checkbox"/> ：発熱 <input type="checkbox"/> ：冷や汗 <input type="checkbox"/> ：けいれん <input type="checkbox"/> ：失禁 <input type="checkbox"/> ：呼吸苦 <input type="checkbox"/> ：イビキ呼吸 <input type="checkbox"/> ：上手くしゃべれない <input type="checkbox"/> ：麻痺() <input type="checkbox"/> ：その他() | | | | |
| 最後の食事： | 時 | 分頃 | | | |
| 病院手配 1件目 | 病院名 | 選定理由 | 結果 | 受入可 不可 | 不可理由 () |
| 病院手配 2件目 | 病院名 | 選定理由 | 結果 | 受入可 不可 | 不可理由 () |

観察状況及び応急処置が分かる範囲で記入

| | | | | | | |
|--------|--------------------|---|------|---------|----------|-----------|
| 意識レベル | 有 | 無 | 呼吸回数 | 回/分 | 脈拍 | 回/分 |
| 血圧 | / mmHg | | 体温 | 度 | 瞳孔 | 右()・左() |
| Spo2 | 酸素投与前 | % | 酸素投与 | ℓ → | SPO2 | % |
| 救命処置 | 心肺蘇生・胸骨圧迫のみ・人工呼吸のみ | | | 開始時刻 | 時 | 分 |
| AEDの使用 | 開始時刻 | 時 | 分 | ショックの実施 | 有・無 (回) | 時 |
| その他の処置 | 固定 | 時 | 分実施 | 止血 | 時 | 分開始 |
| | 冷却 | 時 | 分開始 | 静脈路 | 時 | 分実施 |

記載していただいた事項は、救急業務以外には使用いたしません。

救急隊への情報提供カード 以上については、25年1月8日現在の情報です。

【事前記載事項】：ご利用者ごとに事前に記載しておいてください。

| | | | | | | |
|----------|---|--------------|--|--|---|----------------------------|
| 施設名 | 住宅型有料老人ホーム かのや | 確認の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 | 確認日 | 24/1/10 | 説明を聞いた人 (長男) |
| フリガナ | カノヤ タロウ | 年齢 | 78歳 | 性別 | <input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女 | |
| 氏名 | 鹿屋 太郎 | 生年月日 | M・T(S)H 9 年 11月 1 日 | | | |
| TEL | 43-0111 | | | | | |
| 住所 | 鹿屋市共栄町〇番〇号 | | | <input checked="" type="checkbox"/> 施設に同じ | | |
| 病歴等 | 現在治療中の病気・ケガ (感染症 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 病名) アルツハイマー型認知症 心疾患 | | | 既往歴 脳梗塞(左半身麻痺) | | |
| 常用服用薬 | 別添資料参照 | 注射 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 血液型 | O(A)B・AB型 RH(<input checked="" type="radio"/> +・-) | |
| | | | | アレルギー | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 () | |
| かかりつけ病院名 | 串良クリニック | (電話 43-2222) | ADL | 歩行(全介助・ 一部介助 ・見守り・自立) 食事(全介助・ 一部介助 ・見守り・自立) 排泄(全介助・ 一部介助 ・見守り・自立) | | |
| 担当医師名 | 佐藤 篤志 | | | | | |
| 緊急連絡先 | 氏名 | 鹿屋 郁夫 | 続柄 | 長男 | TEL | 自宅43-1111(携帯090-1234-5678) |
| (家族等) | 住所 | 鹿屋市串良町岡崎〇〇番地 | 救急発生時の連絡確認欄 | | 連絡 <input checked="" type="radio"/> 済 <input type="radio"/> 未 | |

【119番通報時の記載事項】：本日救急搬送を要請するに至った理由などを記載してください。

| | | |
|--|--|---|
| 発症(受傷)を目撃しましたか? | <input checked="" type="radio"/> はい (8日 18時 40分頃) | <input type="radio"/> いいえ |
| 普段の状態を最後に確認したのはいつですか? | 8日 18時 30分頃 | |
| 日常生活 | 会話 | 可能・一部可能・ <input checked="" type="radio"/> 不可 |
| | 歩行 | 全介助・ <input checked="" type="radio"/> 一部介助・見守り・自立 |
| 発症または発見時の状況、主な訴えや症状など 夕食後リビングで休んでいた。 音に気づき、あおむけで取れているのを発見。 頭部を台所の壁にもたれた状態で頭部から多量出血あり。 呼びかけに反応あり。会話不可のため反応のみ。 痛みの訴えなし。 安静を保ち止血。 | | |
| □：顔面蒼白 □：嘔気・嘔吐 □：頭痛 □：胸痛 □：発熱 □：冷や汗 □：けいれん □：失禁 □：呼吸苦 □：イビキ呼吸 □：上手くしゃべれない □：麻痺 () <input checked="" type="checkbox"/> ：その他(頭部出血) () | | |
| 最後の食事： | 17時 30分頃 | |
| 病院手配 1件目 | 病院名 | 串良クリニック |
| | 選定理由 | かかりつけ医 |
| 結果 | 受入可 不可理由 <input checked="" type="radio"/> 不可 (頭部打撲のため脳外科受診の必要あり。) | |
| 病院手配 2件目 | 病院名 | |
| | 選定理由 | |
| 結果 | 受入可 不可理由 不可 () | |

観察状況及び応急処置が分かる範囲で記入

| | | | | | |
|--------|--|-------|------------|---|-----------|
| 意識レベル | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 | 呼吸回数 | ふつう 回/分 | 脈拍 | 不明 回/分 |
| 血圧 | 不明 / mmHg | 体温 | 36 度 | 瞳孔 | 右()・左() |
| Spo2 | 酸素投与前 % | 酸素投与 | ℓ → SPO2 % | | |
| 救命処置 | 心肺蘇生 <input checked="" type="radio"/> 胸骨圧迫のみ・人工呼吸のみ | | 開始時刻 | 時 分 | |
| AEDの使用 | 開始時刻 | 時 分 | ショックの実施 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 (回) | 時 分 |
| その他の処置 | 固定 | 時 分実施 | 止血 | 時 分開始 | |
| | 冷却 | 時 分開始 | 静脈路 | 時 分実施 | |

記載していただいた事項は、救急業務以外には使用いたしません。

緊急連絡の流れの (参考)

■看護師呼び出しの場合

1. (夜勤) CW→待機看護師→医師
2. 待機看護師→家族

■緊急搬送時

※利用者が事故、病気などで医療判断が必要と考えられるケースについては(夜間)待機看護師に連絡して指示を仰ぐこと。

(意識レベルに混濁がなく、生命の危険性が差し迫っていないと判断できる場合であっても、看護処置あるいは医療上の判断が必要な場合は、看護師への連絡を怠ってはならない。連絡が必要か不要か判断に迷う場合は、連絡して指示を仰ぐことを優先する。)

1. (夜勤) CW→待機看護師(看護師の指示に従い、緊急搬送要請)

- 待機看護師に詳しく状態報告すること
例：顔色・意識状態・呼吸状態・バイタル(熱・血圧・SPO₂)
- 状態不良の時は血圧聴取できないことがあるため、血圧測定2～3回程行い聴取不可の時は、そのように待機看護師に伝える。**ただし、緊急性に応じて生命の危険が差し迫っている場合は速やかに救急車出動要請を行う。**

2. (夜勤) CW→救急車出動要請

- 1) 119に電話をかけ、「救急車お願いします」と、伝える
例：性別・年齢・容体(状況・意識の有無・出血部位等)等を報告
- 2) 住所、電話番号を伝える
住所：鹿屋市本町共栄町20番1号 ○○○ホームです。電話：00-1111
- 3) 「○○玄関でお願いします」と伝える ※デイの玄関に行く恐れあるため、しっかり伝えること

3. 夜勤CW→家族に連絡

- 【1】○○○ホーム「介護職員 ○○です。」
- 【2】「△△さん(対象者氏名)ですが、～時頃より～で、これから救急車で病院に向かいます。」
- 【3】「行き先の病院が決まっていないので、決まり次第、電話報告します。」(一度、

電話を切る)

【病院決定時】「■■■病院へ向かいますので、ご家族の方も向かっていただけますか。」

※家族が、遠方等で病院に来られない場合もある。家族が来られるかどうかを、病院に行った、当園待機看護師に伝える

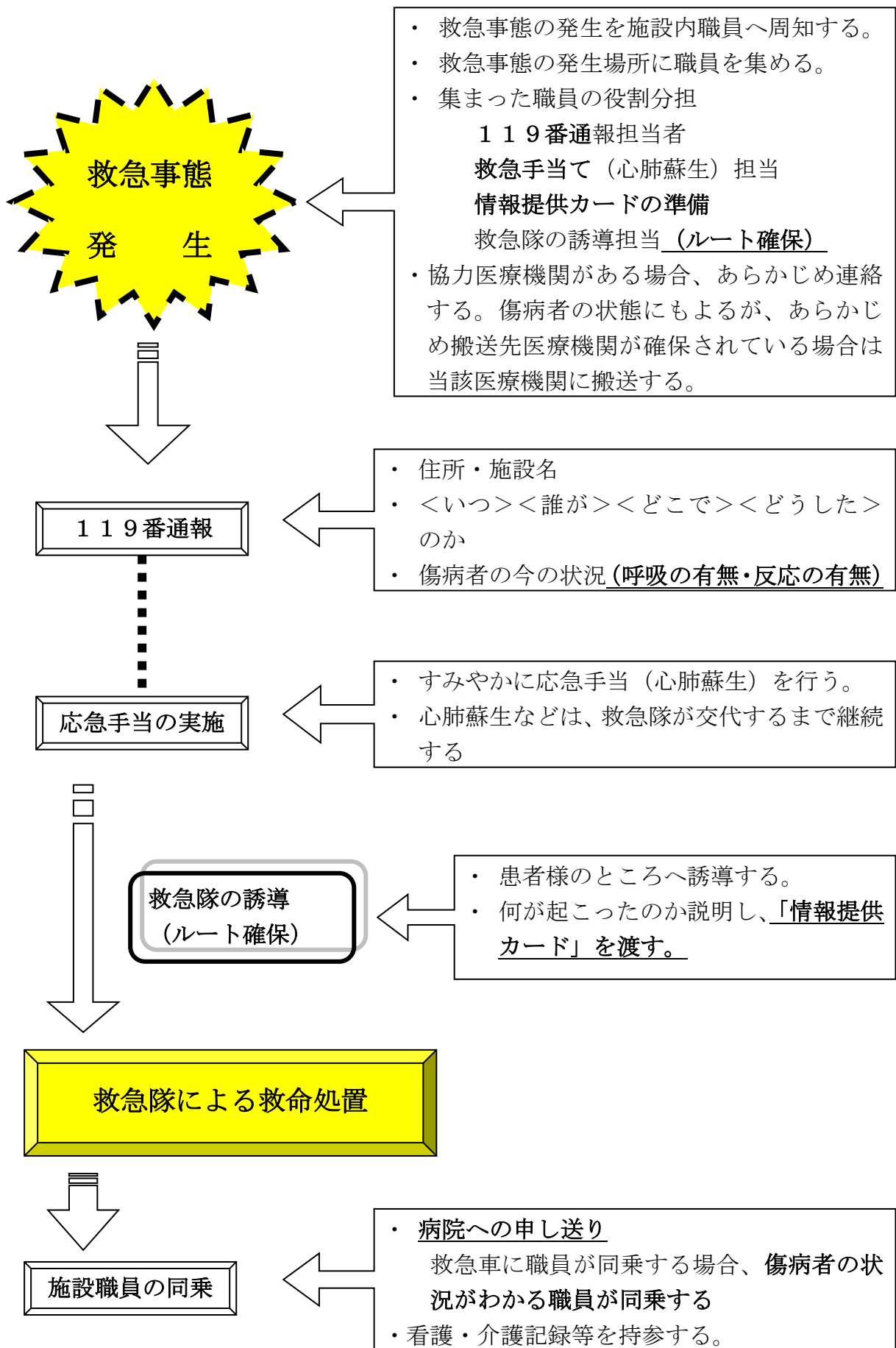
4. 救急隊員到着まで経過（状態）を観察し、到着後報告、夜勤CWは、同行する

※ 欠員のサポートとして当日待機CWが入る

搬送先病院到着後・対象者 情報提供カードコピーを、救急隊に渡す。

○搬送までの経過を、救急隊及び病院のスタッフに説明する。

救急時の対応フロー



消防署からの福祉施設への要望等

1. 救急隊到着までの間に情報提供をカードコピーし用意しておいてほしい。
 - 提供カードは搬送先の医療機関に引き継ぎます。
 - 医療機関は責任を持って破棄又は施設側に返却する。
2. 嘱託医・協力病院・かかりつけ病院がある場合は、施設側から搬送先に事前に連絡してもらえると、搬送時間の短縮に繋がります。
3. 状況のよく分かる方に同乗してもらいたい。時々、入所者の状態をよく把握されていない方が同乗され、状況聴取に手間が掛かります。
4. 夜間等で状況が把握できていない場合は、救急隊到着までに電話等により出来ている方から状態を把握しておいて下さい。
5. 状況に応じた現場活動につなげるために、救急要請後に様態変化があったら、119番へ連絡して下さい。
 - 通報時には「意識なし、呼吸あり」とのことであったが、現場到着時には心肺停止状態という事案があった。
6. 救急隊が到着してから搬送の準備をするために、ストレッチャーが入るスペースの確保等を行って下さい。

福祉施設からの搬送においては、中等症・重症等が多く、救急隊の要望を全てクリアするのは困難と思われませんが、要望の1・2を最低限していただくことによって搬送がスムーズに行えると思います。

〒893-8501

鹿児島県鹿屋市共栄町20番1号

鹿屋市保健福祉部高齢福祉課

介護保険係

TEL 0994-43-2111

FAX 0994-41-0701